

令和2年8月7日

## 夏休み前全校集会での校長の話

6月の始めに久しぶりに皆さんに会ったとき、皆さんは、慣れないマスクで顔を覆い、遠くを見るような目をして登校してきました。校長先生が遠くから「おはよう」と言って手を振っても、それに笑顔で応える生徒はなく、何人かが会釈を返してくれるくらいでした。

それはそうですよね、「大きな声を出してはいけない」「マスクを外してもいけない」「外出を控えてください。ステイホームです」と言われ続けた訳ですから。辛かったですよね。

学校に来てみたら、検温確認され、すぐに手洗い。トイレまでもディスタンスの目印が貼られ、給食の受け取りも廊下に並ぶなど。このような3密を避けた生活に慣れるのも大変でしたね。

あれから2ヶ月経ちました。入学してきた1年生は、どんどん中学生らしく成長しています。自分からいろんなことに興味を持ち、いきいきと学校生活を送っていますね。2年生は後輩ができ、部活動や生徒会を3年生から引き継ぐ時期を迎えています。そのような中でたくましさが見られるようになってきました。3年生は残念ながら中総体がなかったものの、各部で最後の交流試合を行い、後ろ髪引かれる思いに心の区切りを付けたところだと思います。吹奏楽部は30日ですね。

このように、学校の生活が元に近い状態になりつつある中で、皆さんには笑顔が戻り、校長先生が皆さんにお願いしている「温かいあいさつ」も帰ってきました。

2年生の国語科で行った短歌を校長先生も見せていただきましたが、その中に、次のような作品がありましたので紹介します。

「靴履いて 足取り軽く 学校へ いつも通りに 心躍らせ」

「学校で 仲間と共に 笑い合え 改めて知る 幸せの意味」

「放課後に 挨拶をする 後輩に 返せばもっと 飛び交う笑顔」

生徒の皆さんが学校生活や挨拶の意義をこのように実感してくれていることをとても嬉しく思います。

また、一方でコロナ対策に向けては、

「これからも 三密避けて 過ごそうよ まだまだ続く コロナウイルス」

「もう少し 我慢をすれば 戻れるか 元の生活 楽しい日々に」

「毎日が 元に戻って きているが 油断禁物 まだ終わらない」

このような短歌が詠まれています。

校長先生が、4月からずっと職員会議で先生方にお願いしていることが3つあります。

1つ目は、1年間通してのねらいで、「『温かいあいさつ』が飛び交う学校をつくりたい」ということ。

2つ目と3つ目は、今の時期のねらいで、

1つは、「コロナに感染しない、させない、努力の継続」です。しかし、もし、コロナに感染してしまった人が出たら、その人を絶対に責めない。非難しない。その人1人を全員で守ってあげるのだ。ということです。

もう1つは、「自分のクラス、自分の学校、つまり北仙台中学校の一員であることに誇りが持てるようにする」ということです。

この3つをずっとお願いしてきました。

だからこそ、先ほど紹介した2年生の短歌には感動しました。涙が出る思いがしました。

校長先生は、先生方を信用しています。先生方は皆さんを信用しています。その結果、校長先生のねがいが達成できていることを心から嬉しく思います。

これから例年と違って短い夏休みに入りますが、校長先生にとって大切な皆さんです。大好きな皆さんです。この間、皆さんが、自分自身で健康管理に努め、事故にも遭わず、19日に3年生が、20日に1・2年生が、元気に登校してくれることを願っています。

これで、校長先生のお話を終わります。静かに聴いてくれてありがとうございました。